

学校再整備に向けた 検討状況の報告

1. 第2回楽校をつくろう！ワークショップ
2. 整備の方針



1. 第2回楽校をつくろう！ ワークショップ開催報告

令和6年8月18日（日）13:00~15:30
葉山町教育総合センター会議室



葉山町教育委員会教育総務課
Board of Education General Affairs Division

楽校をつくろう！ワークショップのねらい

ワークショップ（年3回）を通して、
学校施設の再整備という
政策決定プロセスに、
より多くの町民の参画を図る。



今回のワークショップの参加者等

【参加者28名】

- 学校運営協議会委員
 - PTA
 - 教員
 - 公募参加
 - 公募小中学生
 - 地域学校協働活動推進員
- +来賓、見学者（18名）

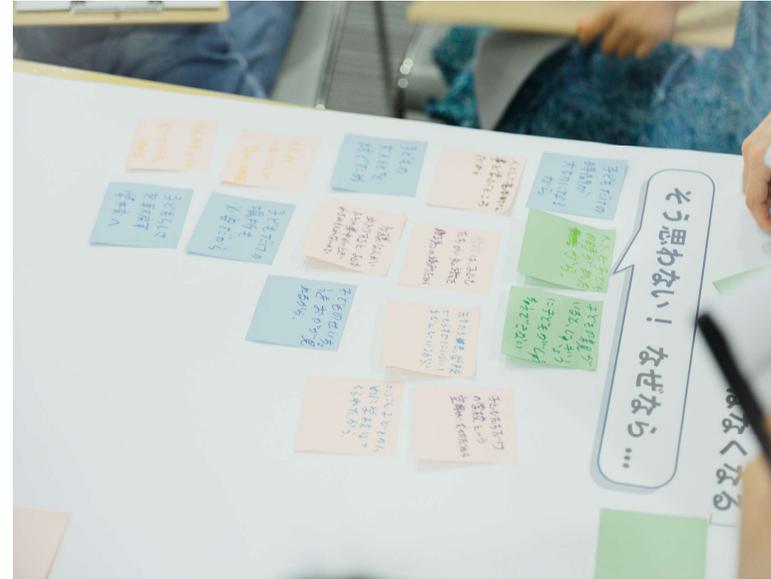


千葉工業大学
倉斗綾子教授
と研究室の皆さん
(13名)

- ワークショップの設計
- ファシリテーション

合計59名

グループワークの様子



今回のワークショップの目的

ディベート形式※



「学校」に対する**多角的な視野**を獲得し
みなさんが求める「**楽校**」の
イメージをつくりましょう

※テーマに基づいて異なる立場に分かれて話し合うこと。今回のワークショップでは、あらかじめ参加者を、賛成派・反対派に分け、勝敗はつけずに実施した。

ディベートテーマ

本日のディベートテーマ 50年後「学校」ってあるの？



アメグループ

授業は、ある/ない



グミグループ

校舎や教室は、ある/ない



チョコグループ

子ども達ためだけの学校ではなくなる
そう思う/そう思わない

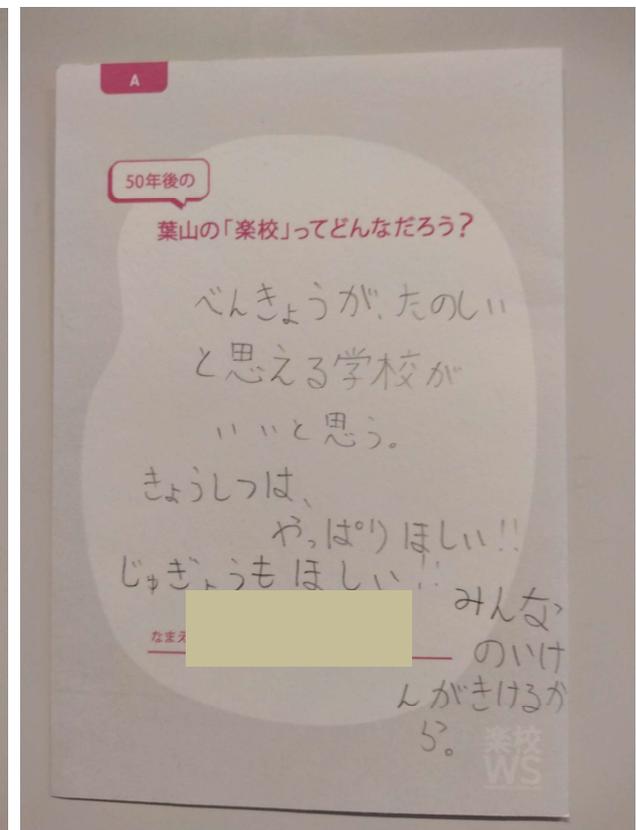
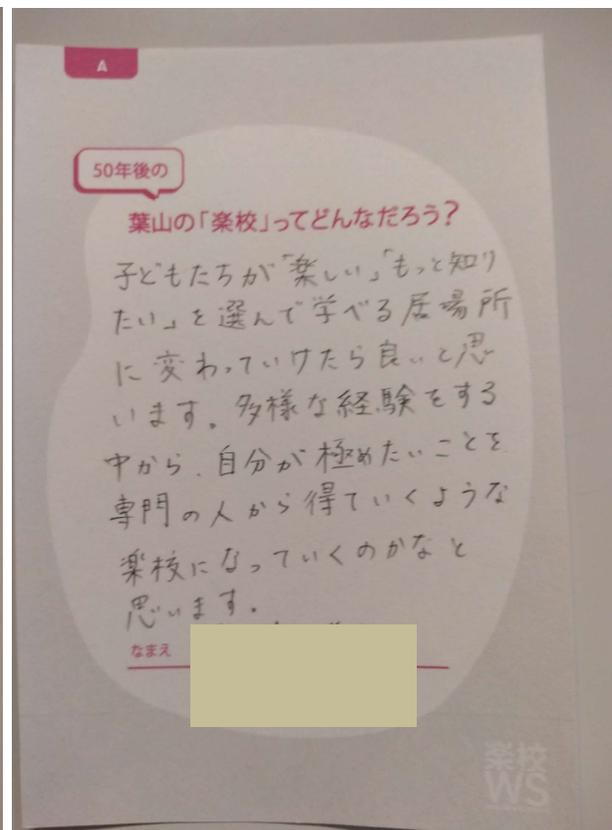
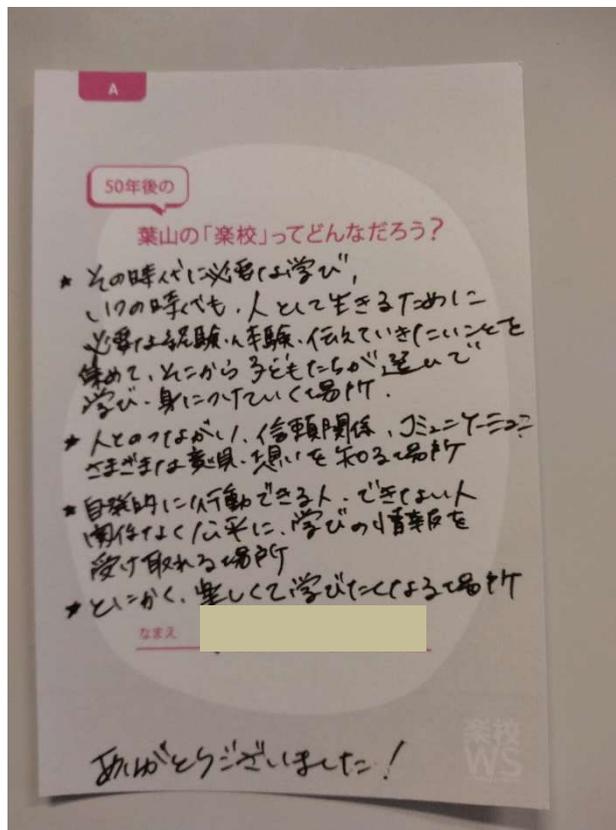
楽校をつくらう！

ディベートを通じて得られた視点（抜粋）

| 授業は ある/ない | 校舎や教室は ある/ない | 子ども達のためだけの場 所ではなくなる そう思う/そう思わない |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ➤ そもそも授業ってなに・先生とは ➤ 教えたい人は先生だけじゃない ➤ 集まらなくてよい ➤ 個人のペースが優先される ➤ 学び方と学ぶ ➤ 遊びたいから授業はなし・楽しい授業だったらあり ➤ 人が教える点は変わらない ➤ 授業の中身が今と全く違う | <ul style="list-style-type: none"> ➤ いろいろな施設を学校のかわりにつかう ➤ 企業が学校をもつ ➤ オンライン化 ➤ 教室が変わっている ➤ 今の机・椅子はない ➤ 可動式の壁 ➤ 先生は子どもの個性を知って一緒に授業を選ぶ ➤ コミュニティの場として存在してほしい ➤ Aiがいろいろ助けてくれる | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 子どもだけの時間・場所も必要 ➤ 防犯やプライバシーが不安 ➤ 大人がいると授業に集中できない ➤ 年齢ではなく学びたい人が来れる場所 ➤ 子どもだけの世界が楽しい ➤ 海・山、自然の場所が学校になる ➤ 町民全体の学びの場になる |

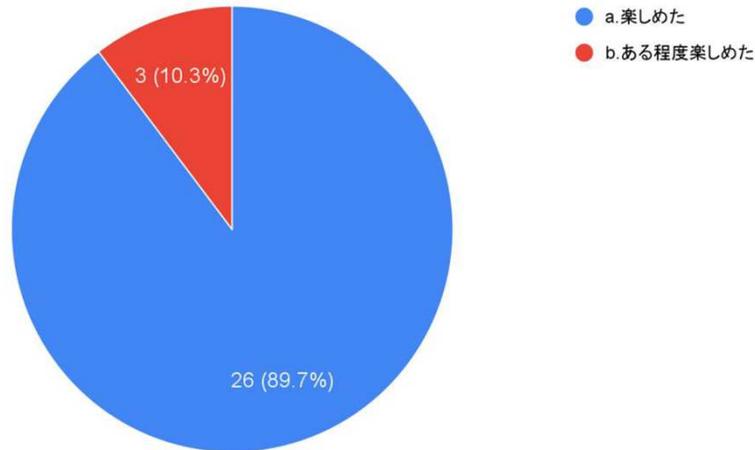
ワールドカフェ→ビジョンカード

自分たちとは別のグループの席に移動してどのような議論があったかをテーブルファシリテーターから聞き、さらに新しい視点を獲得し、これまでの視点を踏まえて自分のアイデアを「ビジョンカード」に記入した。

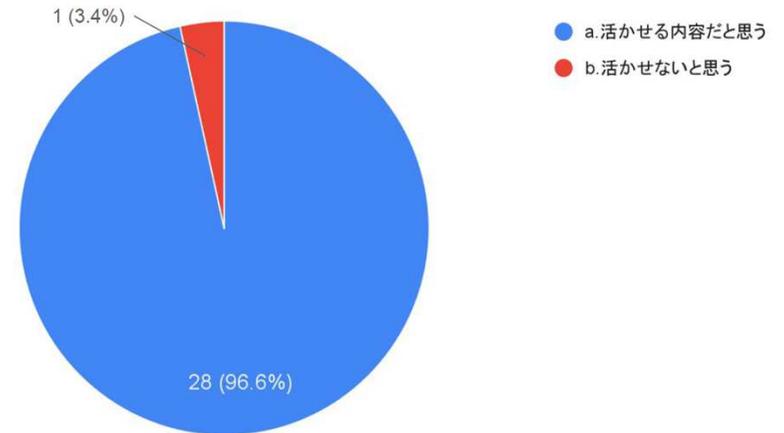


アンケート（抜粋）

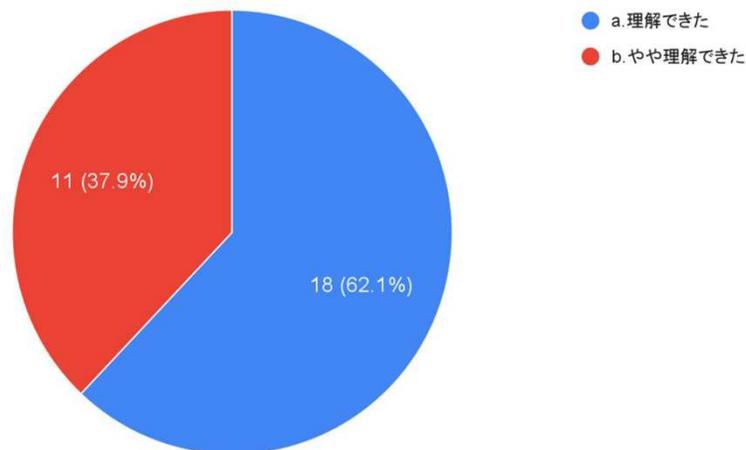
2.1 今回のワークショップは楽しめましたか？



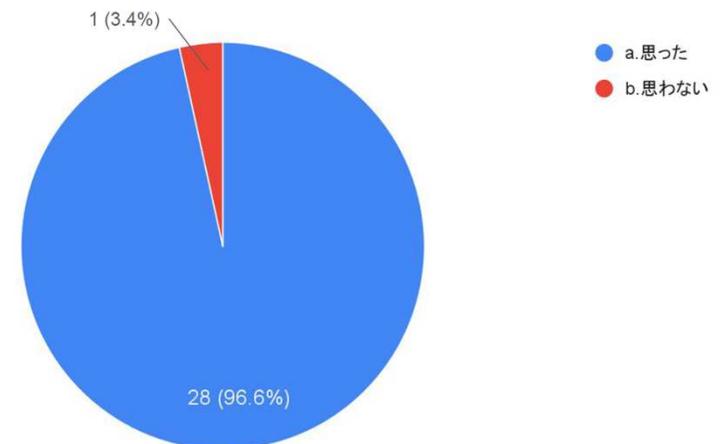
3.4 今回のワークショップは今後「50年後の葉山の新しい楽校」を考える際に活かせる内容だと思いましたか？



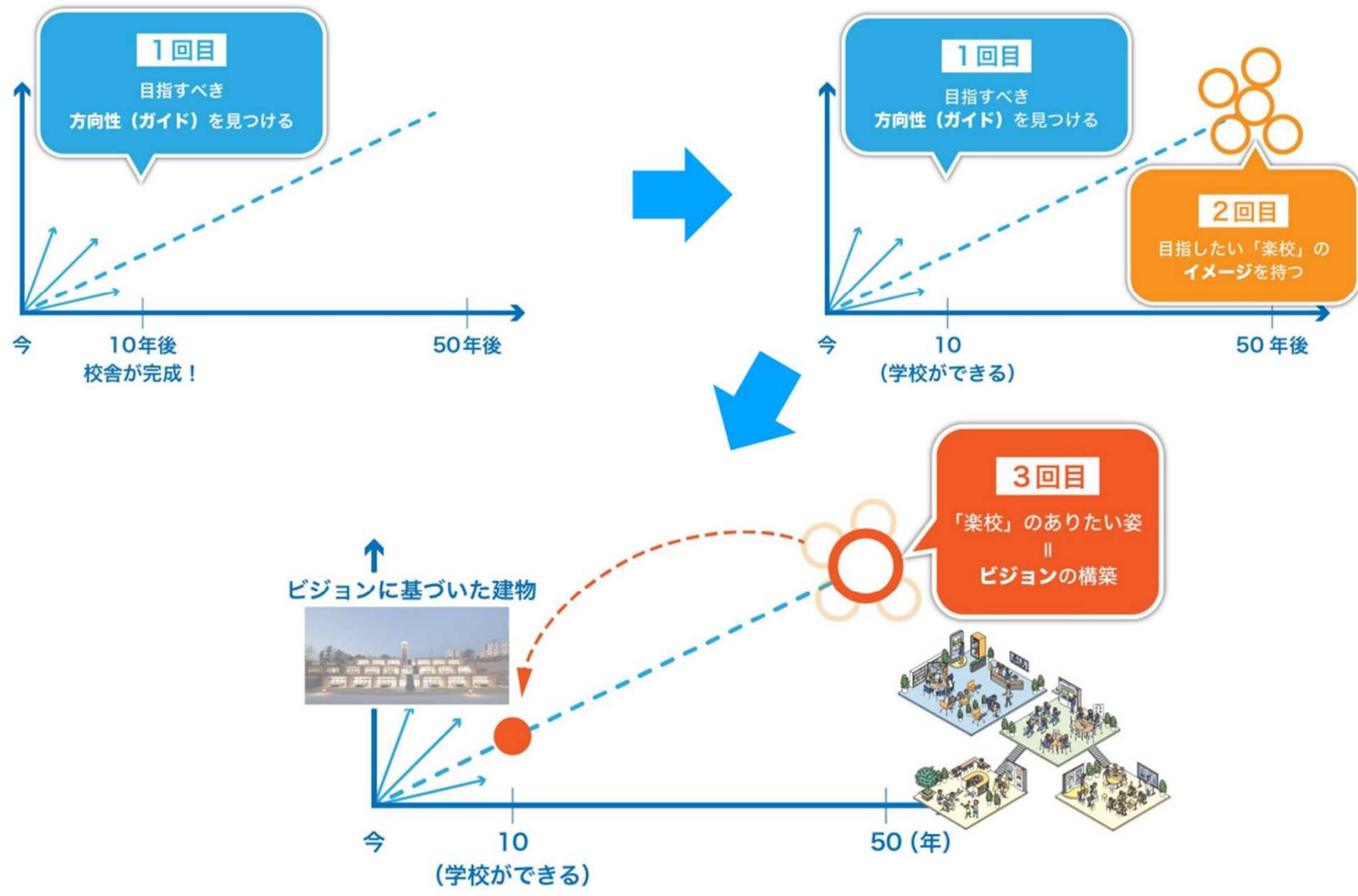
3.1 今回のワークショップの目的について理解できましたか？



3.6 家族や友人にこのワークショップのことを伝えようと思いましたか？



次回：令和6年10月12日（土） 13時～15時半



2. 整備の方針



ワークショップ等を踏まえた整備の方針

A まなぶ

B くらす

C あつまる

D まもる



(イメージ)

各方針で検討している内容

A まなぶ

1) 一人ひとりの探究と創造を支援するフレキシブルな空間

- ①主体的・対話的で深い学びを自由に展開できる
- ②個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実できる
- ③ICT環境が整い、多様な学び方を提供できる
- ④学びの変化へ柔軟に対応できる

2) 多様な選択肢が用意されたインクルーシブな空間

- ①多様な子どもたちが共に学ぶことができる
- ②グラデーションのある支援を選択できる
- ③ユニバーサルデザイン（バリアフリー、だれでもトイレ等）

3) 9年間の系統性を最大化する空間

- ①スクールポリシーを実現できる
- ②学びの変化・子どもの発達段階の顕著な変化に対応できる
- ③学校種・学年・教員・地域の間をつなぐことができる

各方針で検討している内容

B くらす

1) 子ども・教職員にとって居心地のよい空間

- ①居心地の良い空間、過ごしやすい室内環境
- ②教職員のワークプレイスとして使いやすく、居心地の良いものへ
- ③学び・遊び・運動・休憩などをシームレスにつなぐ
- ④豊かな自然環境を取り込む

2) 様々な人の居場所になる空間

- ①友達・先生・地域等との交流拠点
- ②過ごしたい場所を選ぶことができる
- ③教室以外にも居場所がある

3) 安全・安心に過ごせる空間

- ①日常の事故を防ぐ設え
- ②セキュリティが確保された配置計画
- ③防災に備えた設え

各方針で検討している内容

C あつまる

1) 地域が共に子どもを育てる空間

- ①地域がいつでも学校に出入りでき、子どもたちに学びを提供できる
- ②地域が学校の運営に参画できる
- ③学校から地域に出て学ぶ機会をつくれる

2) 生涯学習の拠点となる空間

- ①多世代がつながる学びが展開できる
- ②リスキリング（学び直し）の場、学ぶこと教えることを通して成長できる場
- ③放課後などの施設の開放とセキュリティの両立

3) まちづくりの核になる空間

- ①まちづくりの活動の拠点として人があつまる
- ②公共施設との複合化と再配置から新しいまちを形作る
- ③時間をずらすことで一つの空間を学校と地域でシェアできる

各方針で検討している内容

D まもる

1) 地球環境を守る空間

- ①ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）※の校舎
- ②環境教育の教材となる
- ③新築時に排出されるCO2の削減と校舎の環境性能向上を両立する
- ④木を活かした学校づくり

2) 長寿命で災害に強い空間

- ①防災拠点としての災害時の安全・安心と避難所機能の向上
- ②時代を読み込んだ計画（構工法、発注方式、基本性能、エネルギーコスト）
- ③公共施設マネジメントとしてイニシャルコストとランニングコストの最適化
- ④適正な予算確保、適切な維持管理予算の算出

※ZEB（Net Zero Energy Buildingの略）

快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物のこと。



HAYAMA
MANABI
学校!
をつくろう!